

第 III 相偽薬対照比較臨床試験の結果、セチリストットは有意に体重を減少させただけでなく、内臓脂肪面積減少、HbA_{1c} 低下、LDL コレステロール低下についても有意差を以って有効性を示している。

Norgina BV 社が日本を除く世界でのセチリストット開発の権利を持っている。

日本での販売断念：セチリストットは、日本でも治験が実施され、2012 年 10 月に武田薬品工業により、商品名「オブリーン」で承認申請され、2013 年 9 月に厚生労働省により承認された。薬価収載は 2013 年中にされると思われ薬価も決定していたが、中央社会保険医療協議会はセチリストットの有効性や保険医療上の必要性が問われ、薬価収載を認めず、異例の収載保留となった。2018 年 7 月 13 日に武田薬品工業は、薬価収載が見込めないことを理由に、日本での開発・製造・販売権を、導入元企業のオランダのノルジーンに、2018 年 10 月 13 日付で返却すると発表した。

(6)肥満の予防と治療⁽³⁾

これまで一般的に「肥満は遺伝」と認識されてきたが、近年、生活環境の関与に着目されている。食習慣の変化や身体活動量の低下などにより、摂取エネルギーが消費エネルギーを上回り、過剰分が体脂肪として蓄積される、すなわち肥満につながる。肥満の家系においても、遺伝のみならず、家族の食習慣や運動習慣など共通した生活習慣が肥満の原因と考えられる。このように肥満の成因として重要なのは遺伝よりも生活環境および生活習慣といえる。

肥満の予防・治療：第一に、エネルギー摂取（食事）と消費（運動）のバランス改善、すなわち摂取エネルギーを減らすことと消費エネルギーを増やすこと。しかし、極端な食事制限は長続きしない上、精神的にも悪影響を与える。特に、若い女性では、自分は太っていると思っている人のうち半数以上が標準体重以下との実態も明らかになっており、不必要なダイエットによる健康への弊害が懸念されている。身体活動レベル別に 1 日に必要なエネルギーを把握し【表 7】、食べすぎないように気をつけることはもちろん、意識しないうちに摂取エネルギーが過剰になる傾向がある間食やお酒などの量にも留意する。食事のリズム（欠食、食事時間など）を見直すことも重要である。あわせて、運動を継続的に行うことが大切であり、そのためには、日常生活で普段行っている活動の中に運動を取り入れるようにすると最も効果的である。

推定エネルギー必要量（成人（18 歳以上））

推定エネルギー必要量(kcal/日) = 基礎代謝量(kcal/日) × 身体活動レベル

表 7 身体活動レベル別にみた活動内容

身体活動レベル*	低い (I)	ふつう (II)	高い (III)
	1.5 (1.40-1.60)	1.75 (1.60-1.90)	2.00 (1.90-2.20)
日常生活の内容	生活の大部分が座位で、静的な活動が中心の場合	座位中心の仕事だが、職場内での移動や立位での作業・接客等、あるいは通勤・買い物・家事、軽いスポーツ等のいずれかを含む場合	移動や立位の多い仕事への従事者、あるいは、スポーツ等余暇における活発な運動習慣を持っている場合

* 代表値。() 内はおよその範囲。